

トゲなしユズ優良系統の選抜



写真1 トゲなし系統の春枝（左）と果実（右）

表1 トゲなし系統の樹体特性（2017）

系統名	幹周 ^{z)}	樹勢 ^{y)}	SP ^{x)}	トゲの ^{w)}	トゲ長 (mm)
	肥大率(%)		発生度	発生率(%)	
6号	121.6	2.9	19.3	40.8	5.8
7号	124.7	3.9	8.0	56.0	6.5
8号	120.3	3.3	41.8	46.6	7.4
2号(対照)	129.1	3.0	6.7	67.4	16.6

注) 数値は場内及び現地（安芸、土佐山）の平均値

z) (2017年度の幹周)/(2016年度の幹周)×100

y) 達観で1～5(極弱～極強)の5段階に分類

x) SP: ステムピッチングの略。発生程度指数を0(無)、1(少)、3(中)、5(多)に分類。
発生度=(発生程度指数の合計)/(5×調査枝数)×100

w) (トゲの発生数)/(総節数)×100

表2 トゲなし系統の果実特性(2017)

系統名	果実重 (g)	浮皮 ^{z)} 発生度	果汁 歩合(%)	糖度計 示度	クエン酸含量 (g/100g)	凸型こはん様症 発生数(個/果)
6号	179.1	1.0	21.7	7.2	4.83	1.2
7号	181.1	0.6	22.2	7.4	4.82	0.9
8号	163.5	0.9	22.3	7.7	5.02	1.3
2号	162.7	0.5	24.9	7.6	5.31	1.0

注) 収穫日: 11月上旬、数値は場内及び現地（安芸、土佐山）の平均値

z) 達観で0(無)、1(軽)、2(中)、3(基)に分類。

ユズはトゲが長大で数も多いため、作業性が悪く、果実への刺し傷等による青果出荷率の低下が大きな問題となっています。また、強毒カンキツトリステザウイルス(以下CTV)に感染すると、小玉化による収量の低下や凸型こはん様症の多発による品質の低下が起こります。そこで果樹試験場ではトゲが短く、CTV干渉効果の高い系統の選抜を目的に「高知果試選抜6号」～「高知果試選抜8号」(以下「6号」～「8号」)の特性調査を行っています。

「6号」～「8号」は既存系統よりトゲが

少なく、短い傾向で、中でも「6号」が最も短い傾向でした(表1、写真1)。また、強毒CTVの病徴であるステムピッチングの発生程度から、各系統の保毒する弱毒CTVの干渉効果は「7号」が最も高く、「8号」は低いと考えられました(表1)。凸型こはん様症はいずれの系統も発生が少ない傾向でした(表2、写真1)。

以上の結果から、「6号」「7号」が有望系統として考えられました。今後は果実の貯蔵性等についても検討する予定です。
(果樹試験場 杉本達哉 088-844-1120)